

## 巻頭言

上代文学会代表理事  
藤原茂樹

「上代文学」の創刊は、昭和二十七年九月であった。以来五十六年かけてこのたびめでたく百号という区切りの地点を踏むことができた。これまでの本誌の執筆者は個人名でおよそ三百名、研究論文は総計六百篇目前となつている。

平成十四年に五十周年をむかえた上代文学会は、わが国の上代文学の存在価値を広め確かなものとなし、長年にわたるよき研鑽発表の場として社会的重責を果たしてきた。本誌は、上代文学を対象とした研究成果を公にする信頼性の高い学会機関誌として発行を続けている。その特質の主たるものは、『万葉集』を柱とした韻文、『古事記』『日本書紀』『風土記』等々の散文、また関連諸学を視野に含む広い領域と多様な研究方法とを受け入れる構えにあつた。その懐の広さと奥行きのあるかたは今後受け継がれるべきものである。堅実かつ本質的で豊かな未来の研究を育む中心的役割を積極的に果たしていくために、これまで以上に高い志が求められる。よりよい未来を想い、その道の長手に幸多かれと願うものである。